

**資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録**  
**2014年度 第9回**

<b>報告題名 (title) : 農協内人的ネットワークの形成</b>			
<b>報告者 (name)</b>	山口祥平	<b>日時</b>	11月20日 午後3時~
<b>所属分野 (labo)</b>	フィールド社会技術	<b>場所</b>	第2講義室
<b>座長</b>	小田嶋 裕幸	<b>議事録担当者</b>	町田 奈々子
<b>出席者</b> 木谷、盛田、米澤、米倉、伊藤、石井、鈴木、スチン、宮里、タンボウニ、山口、カライ、ナスン、西田、渥美、金、藤井、町田、青木、黒岩、嶋倉、秀、武居、畠山、チリゲル、ソリゴガ、趙、マンダルフ、石塚			
<b>報告要旨 (Abstract)</b> 近年、農業協同組合は社会情勢の変化に伴い、組織の運営方法としての問題が多様化している。このような理由から、職員個人の持っている情報を農協内でより有効に活用する必要性があるのではないかと想定し、宮城県内14農協を対象に人的ネットワーク形成を試みる社会実験を行った。 先行研究では、農協組織内の情報活用について組織側の捉え方や活用の仕方など、その実態の把握を試みた研究は少ない。そこで、本研究では職員を調査対象とし、意識調査と行動から農協組織内での情報活用する上での問題点、その実態を明らかに出来ると考えた。 本稿では、2011年9月から実施した社会実験のうち、その形成過程、形成手法として実施したWeb掲示板について分析、考察を行った。			
<b>質疑・応答 (Q &amp; A)</b> <b>渥美</b> : 掲示板の設置年が2年くらい前だが、現在はやっていないのか? <b>山口</b> : 2013年4月で終わった。図2・3の通り、4月の時点で書き込みが減少していた。 <b>渥美</b> : その要因は? <b>山口</b> : 積極的に一人で4割の書き込みをしていた職員Kが存在しなくなったことが最大の要因。職員Kは他の職員の書き込みもフォローしていたが、職員Kがいなくてフォローもなくなり、書き込み数が減少。書き込みが少なくなることで読む人もいなくなった。 <b>宮里</b> : この研究の目的や社会の役に立つ点は何なのか? ヒエラルキーをなくせば組合員へのサービスが向上する、ということなのか? それとも、ヒエラルキーがあり実験しても何も変わらず、農協がダメということなのか? <b>山口</b> : 人的ネットワークを形成する方法は、今回の方法が必ずしもベストというわけではないが、社会実験をすることでインフォーマルネットワークを作る上でどういったことが問題になるのかを明らかにしたい。 <b>小田嶋</b> : 掲示板で発言の主体は管理職や年齢が上の人が多いが、ヒエラルキー型の組織が掲示板にも表れていたのでは? <b>山口</b> : 前提として掲示板は匿名なので、そういうことはない。			